

## 農水商工委員長報告

平成30年11月定例会（12月14日）

農水商工委員長報告をいたします。

今定例会において農水商工委員会に付託されました議案のうち、既に12月5日に報告いたしましたものを除く議案の審査結果等について報告いたします。

本委員会に付託されました議案は、「平成30年度島根県一般会計補正予算（第5号）」の予算案1件、「島根県家畜保健衛生所条例の一部を改正する条例」の条例案1件であります。

これらの議案について、執行部に説明を求め、慎重に審査いたしました結果、いずれの議案も全会一致をもって、原案どおり可決すべきとの審査結果でありました。

次に、報告事項など所管事項調査における質疑、意見等のうち主なものについて申し上げます。

まず、農林水産部所管事項についてであります。

執行部から報告のありました「今後の園芸の推進について」では、委員から、生産量を増やし農業産出額を増加させる施策は大切だが、売り先のイメージはあるのかとの質問があり、執行部からは、水田における園芸の推進にあたって現在示している県推進品目については、一人あたりの購入量が伸びているものや、カットサラダなど近年需要が伸びている品目を選んでいく。今後も、売り先をしっかりと押さえながら推進していくとの回答がありました。

次に、商工労働部所管事項についてであります。

委員から、平成30年7月豪雨災害の被災地への周遊旅行に対して補助する「13府県ふっこう周遊割」の現在の状況について質問があり、執行部からは、国からは島根県分として約39,000人泊分の補助金の交付を受けているところ、11月末現在で6割弱の宿泊者数に達している。引き続き、「13府県ふっこう周遊割」を活用し、冬期の閑散期対策にしっかりと取り組むとの回答がありました。

さて、本委員会では昨年度から、「地域産業及び農林水産業の発展に向けた人材確保」をテーマに、多様な人材を受け入れて経営発展につなげている事例や、多様な働き方に柔軟に対応できる就業環境の改善などにより人材確保につなげている事例、学校の県内就職のための支援状況など、現地調査を含め調査活動を行ってまいりました。

本県では労働人口の減少、産業界における高齢化に伴う「労働力の不足」が大きな問題となっています。事業者等が所得向上を目指して経営規模の拡大や経営の多角化を進めていくためには、農林水産業や商工業の特性に留意しつつ、経営に見合った労働力や繁忙期にあわせた人材を継続的に確保する必要があります。

以下、調査等を通じて得られた成果を踏まえ、その結果を報告いたします。

まず、農林水産業についてであります。

本県では、近年、UIターン者を含む農林水産業の新規就業者数は増えつつあるものの、依然として、農林水産業の担い手が不足しています。このままでは産業として維持することが困難となり、将来の展望が描けない地域が多数存在することになると危機感を抱いています。このような状況を回避するためには、農林水産業のそれぞれに新規就業者を増やすとともに、多様な担い手を確保することが重要であると考えます。

このため本委員会においては、有限会社やさか共同農場や有限会社ジェイエイファームみやざき中央、JA しまねくにびき地区本部中海干拓事業所では、新規就農者の確保・育成に向けた支援に取り組んでいる事例を、株式会社ジェイエイフーズみやざきや安来市・やすぎ農業サポートセンターでは、労働力不足に対し、工夫している事例を調査しました。

新規就農者の確保・育成に向けた支援の取り組みでは、農業経験が少ない若者等が就農できるよう、就農前に技術研修を行い、就農に向けた情報提供や技術習得、就農後の地域での暮らしへの指導など、定着するまでの各段階に応じたきめ細やかな支援を実施している事例がありました。

また、労働力不足に対する取り組みでは、女性や高齢者が活躍できるような短時間勤務を選択できる仕組み作りや、繁忙期の労働力を補完するためにサポーターを養成し、無料の職業紹介を行っている事例がありました。

これらの事例は、いずれも担い手の不足に対して、新規就農者の定着、女性や高齢者がいきいきと活動できる環境整備などの多様な取り組みを実施することで成果をあげていることから、本県においても将来にわたって農林水産業の担い手の確保・育成について、既存の手法にこだわらず、これまで以上に新たな手法を検討し、積極的に行っていく必要があると考えます。

次に、地域産業についてであります。

全国的な景気回復、生産年齢人口の減少により、県内企業は深刻な人材・労働者不足の状況にあります。それにより事業運営に支障が生じたり、また、県内企業の99%を占める中小企業・小規模企業者では、後継者を確保するのが難しくなっています。現在の人材不足は企業経営に深刻な影響を及ぼす課題であります。

本委員会では、こうした課題への対応を検討するため、石見食品株式会社や大見工業株式会社島根益田工場で、人材の確保と定着に積極的に取り組んでいる事例を、株式会社NICSでは、ワーク・ライフ・バランスを実現するため、労働環境を整備し、多様な働き方を推進している事例を、清川メッキ工業株式会社では、人を大切にする経営管理の取り組みの事例を、また、出し手側である学校では、生徒や学生の就職状況、キャリア教育や就職支援などを調査しました。

人材の確保と定着については、インターンシップを積極的に受け入れ、若者の採用につなげ、離職を防ぐ取り組みを実施し、また、UIターンの採用など県外からの人材確保にも力を入れている事例がありました。

多様な働き方・人を大切にする経営として、フレックスタイム制度、短時間勤務や在宅勤務・短時間正社員など多彩な勤務体系を整備し、生活の質を向上させる福利厚生充実を図り、若い社員、女性、高齢者や障がい者にも働きやすい職場環境づくりにも取り組まれている事例がありました。

これらの調査結果を踏まえ、本県の地域産業及び農林水産業の発展に向けた人材確保のための施策の方向性として、次の5項目について提案いたします。

#### 1. 新規就業者の確保・育成、支援体制の構築について

本県農林水産業を持続可能なものとして維持・発展させていくためには、意欲ある新規就業者を確保し、技術の習得を図りながら安定した経営ができるよう支援する必要があるため、市町村、教育機関、関係団体等と連携を図りながら、引き続き、地域の農林水産業の担い手となる新規就業者の確保に努め、就業、研修、就業後のフォローアップなど、各段階できめ細かな支援を進めること。

農業は、高齢化等による担い手のリタイヤに比べ、自営新規就農者が不足しており、雇用就農から自営就農に円滑にステップアップを促す取り組みが必要で、自営就農へスムーズに繋がるように、農林大学校から自営就農するまでの道筋を具体的に示し、自営就農者の育成を強化すること。

また、自営就農を目指す農業法人等の雇用就農者が、独立して自営就農へ移行できるよう支援を強化すること。

#### 2. 労働力不足に対する労働力確保の仕組みづくりについて

繁忙期の労働力確保ができないため適期作業が間に合わず、収穫期のずれや未収穫が生じ、農業所得の向上や経営の安定に影響を及ぼしている。このため、市町村、JA、県等が連携し、農作業をサポートできる人材募集から研修による技術習得を図り、労働力不足の農家へ派遣する制度を、県内各地に普及すること。

### 3. 若者の県内就業のための支援策の強化について

少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少が進んでいることから、県内の中小企業においては、人手不足が深刻化しており、若者の中小企業理解を促進するため、県内中小企業におけるインターンシップ、企業見学ツアーや交流イベントなどの機会の拡充を図ること。人材確保とあわせて人材定着が大きな課題となっているため、定着率を高めるための企業の取り組みを支援すること。都市部に在住する県内出身の若者のUターン就職の促進や地方で働く魅力を学生に伝えるなど、若者の雇用対策の充実を図ること。

また、例えば、都会は地方に比べると給料が高額であるが、物価も同じく高い。島根の魅力を知り、島根で働き暮らすことの良さを学生・生徒、保護者に丁寧に説明するよう学校に働きかけること。企業等と協働して、県内の企業や産業分野の理解を深める地域志向型キャリア教育の更なる充実、県内企業への就職マッチング強化など学校の取り組みを支援すること。

### 4. 多様な働き方の支援の推進について

出産・育児や親の介護など、ライフサイクルの中で生じる私生活の変化に対応した多様な働き方ができることが必要であり、柔軟な働き方を選択できる環境整備に取り組む企業等の支援を進めること。

### 5. 生産性向上と「働き方改革実現」のための支援について

設備投資、IoT・IT ツール等の利活用による県内企業における生産性向上の取り組みを支援すること。

中小企業・小規模企業者が「働き方改革」に取り組みやすい環境を整備すること。

なお、これら5つの提案に加えて、外国人労働者の受け入れについてであります。

政府は、人材不足を補うため、外国人労働者の受け入れ拡大に向けて動きを進めているところであります。外国人労働者の受け入れに当たっては、様々な課題があり、賛否も分かれているのが実情であります。

こうした状況を踏まえ、国の責任において、外国人の受入環境の整備と地域との共生の推進に向け、日本語教育や生活支援に取り組むよう強く要望していくことが重要だと考えます。

以上が、本委員会の調査テーマに関する調査結果の報告であります。

以上、農水商工委員会における審査の概要等を申し述べ、委員長報告といたします。